

らの呼び掛けを聞く事が出来ました。

広島原爆は落とされた日、翌日位まではなんの爆弾かわかりませんでした。ただ大変恐ろしい爆弾と言われ、想像も出来ない思いを全国民はした事と思います。

現在政府の方々、特に社会福祉関係の方々、年々老人がふえ消費税と言う悪税で目先をかえよとしております。老人は戦争の生き残りです。現在、日本中の議員と名のつく方々も近いうちに老人になります。私がお老人にするのではありません。自然神様の節理です。その時にその方々も悪税をきつと悲しみます。一日も早く戦争と言う言葉がこの世界から無くなる様皆努力しなければなりません。戦争に現在老人（当時青年）が生き残りました事をおぼえて下さ

い。そして今日の日本がある事です。私達老人が生きているから、日本の現在があります。日本の将来は平和な経済大国として繁栄して残す事、それは若き日の現老人が居ると言う事をわすれてはなりません。これはいわゆる我々が子孫に伝える大事な任命です。それと戦争と言う言葉が此の世から聞なくてすむ国になる事を望みます。言い伝えます。そして福祉行政の行き届いた国でありたい。

交野市星田の駅から北へ千メートル位と思いますが線路側西に現在美しい鎮魂碑が建っております。

この碑は昭和二十年七月九日、交野山の方で空中戦が始まり、アメリカ軍機（グラマン）と空中戦をし、武運つたなくこの地で戦死された青年将校のために建てられたものです。勝までは欲しがりません。食料

物にたいするスローガンです。後、一億玉碎と言うスローガンが流行しました。今頃は日本国民が一人もいなくなると言う実になししいスローガンがあつた事を付け加え戦争をした事です。